

麻生すこやか通信

VOL. 21

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2012年1月



昇竜の歳

理事長 斎藤 久寿

新年おめでとうございます。皆さまは辰年の新年に期待と希望を込めて迎えられた事と思います。昨年は想定外の震災(地震、津波、福島原発事故)があり、その対策・復興も進まぬ中、不況も続き、消費税増の掛け声が響いており、不安から抜け出せませんでした。政治には国民を鼓舞する政策を願うばかりです。

今春、当院は27周年となり、5月の新病院移転に向けて大きな節目を迎えます。昨年は電子カルテの達成と更なるペーパーレス化を計りました。今年には既に構築してあるオーダリング、PACSとも連携し、患者さまをお待たせしない病院として更に前進致します。

新病院移転を機に、医療の原点を見つめ直し、患者さま中心の医療、“患者さま第一”を心がけ、地域のニーズに応え、決して諦めない医療を目指します。地域の病診連

携は当院の取り組むテーマであり、今まで以上に急性期の患者さまを受け入れ、又、急性期をすぎた患者さまに必要な医療、看護を提供するために密度の濃い連携が必須になります。

新病院では各分野の専門職がプロとしての仕事に徹する環境が完成します。この環境を活かし、更なる質の高い患者さまサービスを提供していく所存です。

ドラゴンの干支に因んで昇竜の勢いを得て、足下を見失わず、職員一丸となって希望と期待に応えます。皆さまの叱咤、激励をお願いします。



新病院に移転します 病院長 村田純一

新年あけましておめでとうございます。今回は前号からお伝えしていた新病院について詳しくご報告します。北22条東1丁目に5階建ての建物が順調に建築中であり、今年5月の連休明けに開院の予定です。地下鉄でお越しの場合は、北24条駅で降りて徒歩7～8分です。建物の北側には大きな駐車場もあり、現病院以上の台数を収容できる予定です。

建物の概略は下図をご覧ください。メイン・エントランスは東側(旧石狩街道)に面しています。外来の待ち合いホールは十分な広さがあり、診察室の数も今より多く、プライバシーに配慮したつくりになっています。南東の角には、患者さまやお見舞いの方がくつろげる、1～2階吹き抜けの喫茶コーナーを設けています。

現病院では離ればなれに点在していた画像診断部門は、救急外来処置室に隣接した位置に集約し、救急患者さまが最短の動線でアクセスできるようにしています。診断機器は、今までの3台の1.5テスラMRIに、更に3テスラMRIが加わり、より高度な脳神経疾患の診断が可能になります。



完成イメージ

開院	平成24年5月連休明け(予定) ※入院患者さまの移転時期は5月1日を予定しています
新住所	札幌市東区北22条東1丁目1-40 TEL: 011-731-2321
交通アクセス	地下鉄: 南北線 北24条駅 (地下鉄2番・3番出口から徒歩約8分) 中央バス: 「北24東1」下車、徒歩約3分 「北21東1」下車、徒歩約2分

2階は、手術室や血管造影室、およびICUを有する救急病棟からなり、脳神経外科病院の中核となります。3～5階は入院病棟ですが、中央に3フロア吹き抜けとなった中庭を配置しています。病室はすべて南あるいは東に面しており、温もりとやさしさのある病室になっています。個室が大幅に増えてプライバシーを重視しています。各病棟のスタッフステーションは病棟のほぼ中心に位置し、各病室へアクセスしやすくなっています。患者さまがくつろげるように、食堂・談話コーナーを各病棟の南東の角に設け、また中庭に面した位置にも、デイ・コーナーを設けました。リハビリテーション室は今までよりもかなり広くなり、充実した訓練を行えるようにしています。もちろん冷暖房も完備し、療養環境にも配慮した建物となっています。

建物は一新しますが、大事なのはやはり人の心です。今までどおりのスタッフが、誠意と専門性を持って治療に専念していきます。地域医療を重視し、脳神経外科専門の救急病院としての役割を今までと変わらずに果していきたいと思えます。

5F 5階病棟、給食
食堂談話室、デイコーナー

4F 4階病棟、医局、会議室
食堂談話室、デイコーナー

3F 3階病棟、リハビリ室、高気圧酸素治療室、医療生活相談室
食堂談話室、デイコーナー

2F 2階病棟、手術室、中央材料室、放射線科(RI・DSA)
地域医療連携室、デイコーナー、ラウンジ

1F 受付・待合ホール、外来診察室、売店、喫茶コーナー
放射線科(MRI・CT・X線)、検査室(脳波・心電・筋電・エコー)

B1F 物品庫、カルテ庫、洗濯室、機械室

テーマ 脳卒中あんしん連携ノートについて

平成23年度3回目の勉強会を去る11月30日(水)に行いました。北海道地域連携クリティカルパス運営協議会で、脳卒中の再発予防を目的として患者さま自身が携帯するノート形式のパスで「脳卒中あんしん連携ノート」が作成されました。このノートの活用は昨年8月から北海道各地域で試行が始まっております。

当院でも、試行予定のため今回の勉強会を企画いたしました。参加者は、日頃からお世話になっています回復期のリハビリをお願いしております病院の先生や看護師・MSW・リハビリスタッフの方や診療所の先生と地域で活動されている包括支援センター・グループホーム等のスタッフの方々にご参加頂きました。



1 「脳卒中地域連携パス」から「脳卒中あんしん連携ノート」へ ～患者・病院組織・地域の変化について～

当院の医療生活相談室の星野由利子室長から、これまでの病院間連携からさらに推し進め、患者さま自身が再発予防に関する知識を得て、自己の経過やデータを知り、ノートに自分らの情報を記載して活用することで、安心につなげていきたいとの話がありました。

2 「脳卒中あんしん連携ノート」導入による新たな予防と地域連携

当院の村田純一院長から、あんしん連携ノートの具体的な使用方法や専門医やかかりつけ医がその方の治療経過や検査データなどを個別に記載し、患者さま自身がノートとして持つことで治療の経過がわかり、医師やその他のスタッフが情報を共有し、患者さまを中心とした連携の重要性について話がありました。

司会の北海道大学病院脳神経外科教授の寶金清博先生(北海道地域連携クリティカルパス運営協議会の会長)は、まとめの中で脳卒中あんしん連携ノートの全道的な活用状況や地域全体としての連携の必要性について述べられました。ありがとうございました。

※ 脳卒中あんしん連携ノートは、北海道地域連携クリティカルパス運営協議会が、脳卒中(脳梗塞・脳出血・くも膜下出血)を経験した方に、脳卒中再発予防と健康増進のため作られました。詳しくは北海道地域連携クリティカルパス運営協議会ホームページをご参照ください。

インフルエンザとマキシマルプリコーションについて

* マキシマルプリコーション

中心静脈カテーテルを挿入する時に、CDC(米
国疾病管理センター)のガイドラインで推奨さ
れている方法



当院では感染の予防を目的に、感染委員会が院内ラウンドを行ったり、広報紙を発行するなどの活動をしています。その活動の一環として2011年12月14日に、「インフルエンザとマキシマルプリコーション」について研修会を開催しました。インフルエンザについては以前から言われている事ですが、「手洗い」が大切なこと、飛沫感染を防ぐためにはマスクが大切なことを話されました。また、新しい話題として、インフルエンザウィルスのワクチンを注射ではなく、点鼻薬のワクチンが研究されていることを話されました。マキシマルプリコーションについては、その方法と実施した時の効果をデータを用いながら話されました。今回の研修では、感染を予防する一番の方法はやはり「手洗い」であること、マキシマルプリコーションを実施することの効果を確認することができました。今後も患者さまが安心して療養生活を送れるように、感染予防に取り組んでいこうと考えております。

当院の理念・方針・患者さまの権利

病院の理念

私たちは、常に「患者さま第一」を心がけます。

病院の方針

- 1.高度先進医療の推進と実践
- 2.地域医療への貢献、啓発と実践
- 3.患者さまの権利擁護と尊重
- 4.医療従事者、学生の教育と実習

患者さまの権利

- 1.病気のことについて、納得いく説明を求めることができます。
- 2.患者さまのプライバシー(全ての情報)は厳守されます。
- 3.治療、検査、看護の同意について、患者さまの意思が尊重されます。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年3月11日以降、私たちは、大きな悲しみと怒りを覚え、それぞれの人生観をも揺さぶられるような大きな出来事を体験しました。その傷跡は未だ癒えませんが、そのような中でたくさんの勇気と絆が生まれた年でもありましたね。

さて、2012年は、当院にとって大きく飛躍する年です。さながら龍の如く勢いよく天空を目指し、昇っていきましょう。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒007-0840 札幌市東区北40条東1丁目1-11

TEL 731-2321(代表) FAX 731-0559

ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

- 地下鉄南北線「麻生駅」下車 出口3番・4番より東へ徒歩7分
- 中央バス「北39条東1丁目」下車 北へ徒歩2分
- 中央バス「北42条東1丁目」下車 南へ徒歩2分

